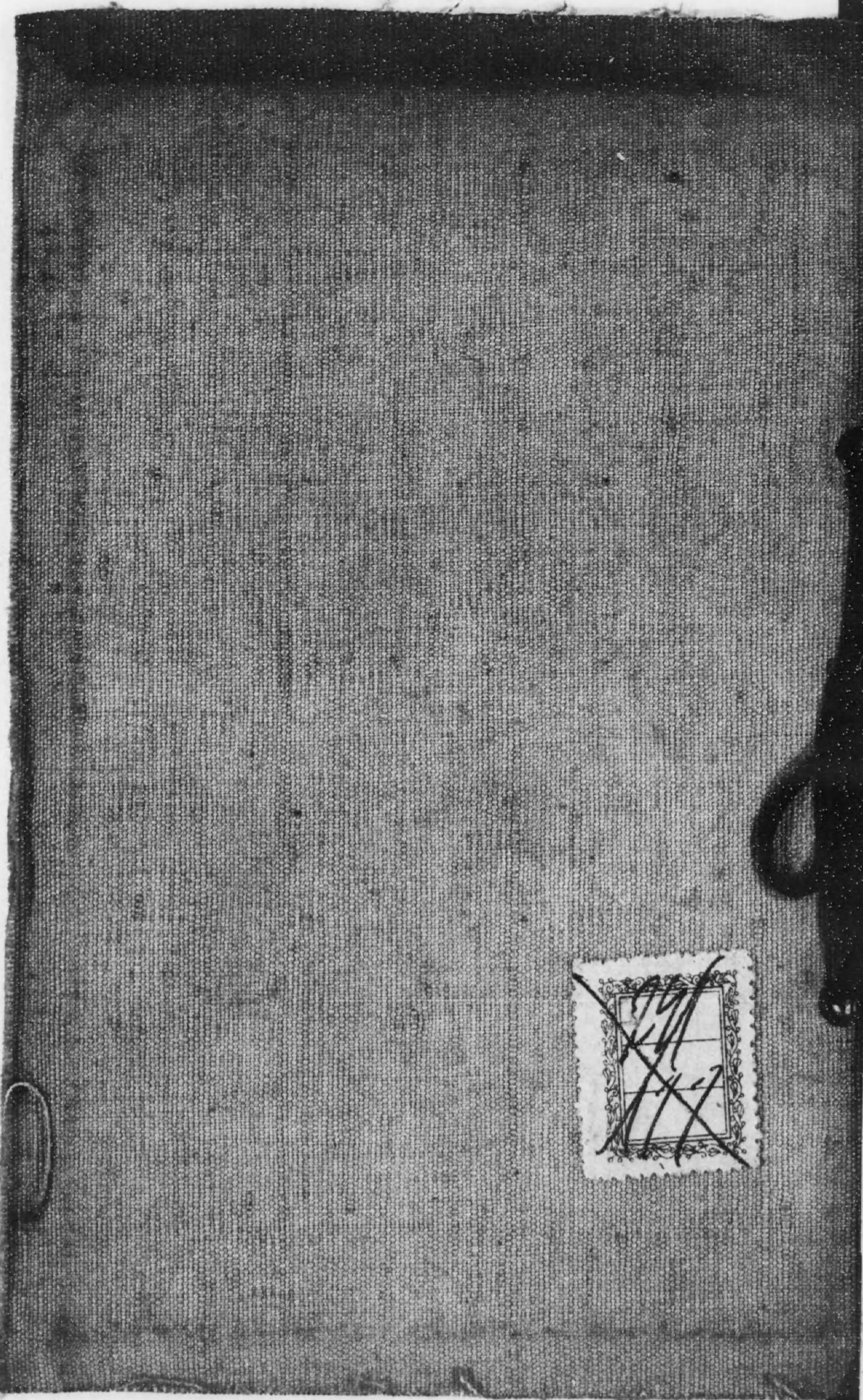


始



特109
828

大藏省主稅局事務官能勢貞治監修

日本租稅學會編纂

現行

租稅法規集



日本租稅學會藏版

大正
11. 10. 25
内交

考 備	加除濟年月日		加除濟年月日	
	大正十一年九月三十日			
	年	月	年	月
	年	月	年	月
	年	月	年	月
	年	月	年	月
	年	月	年	月
	年	月	年	月
	年	月	年	月
	年	月	年	月

現租稅法規集 目次

- 國稅徵收法……………明治三〇年法律第二一號……………自頁一至三
- 國稅徵收法施行規則……………明治三五年四月勅令第一三五號……………一三一—三三
- 地租條例……………明治一七年三月第七號布告……………三三一—三四
- 地租條例施行規則……………明治四三年一二月勅令第四四四號……………三三一—三四
- 所得稅法……………大正九年七月法律第一一號……………四一—四六
- 所得稅法ノ施行ニ關スル法律……………大正九年七月法律第一二號……………四九—七〇
- 所得稅法施行規則……………大正九年七月勅令第二二六號……………七一—九九
- 營業稅……………明治二九年三月法律第三三號……………九一—一二三
- 營業稅法施行規則……………大正三年一〇月勅令第二二九號……………一二五—一二六
- 相續稅……………明治三八年一月法律第一〇號……………一二七—一二八
- 相續稅法施行規則……………明治三八年三月勅令第六八號……………一二九—一三〇
- 通行稅法……………明治四三年三月法律第五號……………一三一—一三二

- 通行稅法施行規則……………明治四三年三月勅令第二九號……………一五〇
- 登錄稅法……………明治二九年三月法律第二七號……………一五一—一七
- 登錄稅法施行規則……………明治三二年五月勅令第二〇五號……………一八一—一九二
- 鑛業稅(鑛業法抄錄)……………明治三八年三月法律第四五號……………一九三—一九八
- 砂鑛區稅法……………明治四三年三月法律第一三號……………一九九
- 酒造稅法……………明治二九年三月法律第二八號……………一九九—二〇三
- 酒造稅法施行規則……………明治二九年八月勅令第二八七號……………二〇三—二〇五
- 酒母、醪及麴取締法……………明治三七年一月法律第七號……………二〇七—二〇九
- 酒母、醪及麴取締法施行規則……………明治三七年一月法律第七號……………二〇九—二一〇
- 酒精及酒精含有飲料稅法……………明治三四年三月法律第八號……………二一〇—二一五
- 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則……………明治三四年八月勅令第一六五號……………二一〇—二一五
- 麥酒稅法……………明治三四年三月法律第一二號……………二一五—二一八
- 麥酒稅法施行規則……………明治三四年八月勅令第一六八號……………二一五—二一六
- 醬油稅則……………明治二一年六月勅令第四七號……………二一五—二一七
- 醬油稅則施行規則……………明治三二年三月勅令第四六號……………二一七—二一九

- 自家用醬油稅法……………明治三三年三月法律第四三號……………二二一—二二九
- 自家用醬油稅法施行規則……………明治三三年三月勅令第六七號……………二二四—二二五
- 砂糖消費稅法……………明治三四年三月法律第一三號……………二二七—二二九
- 砂糖消費稅法施行規則……………明治三四年八月勅令第一六九號……………二二七—二三〇
- 織物消費稅法……………明治四三年三月法律第一號……………三一一—三二七
- 織物消費稅法施行規則……………明治四三年三月勅令第一八五號……………三一九—三二八
- 石油消費稅法……………明治四一年三月法律第二一號……………三二九—三三三
- 石油消費稅法施行規則……………明治四一年三月勅令第四一號……………三三三—三四〇
- 賣藥稅法……………明治三八年五月法律第七一號……………三四一—三四八
- 賣藥稅法施行規則……………明治三八年五月勅令第一五五號……………三四九—三五三
- 印紙稅法……………明治三二年三月法律第五四號……………三五五—三六二
- 取引所稅法……………大正三年三月法律第二三號……………三六三—三六九
- 取引所稅法施行規則……………大正三年七月大藏省令第一三號……………三七一—三七二
- 骨牌稅法……………明治三五年四月法律第四四號……………三七三—三七七
- 骨牌稅法施行規則……………明治三五年五月勅令第一五四號……………三七九—三八三

- 兌換銀行券發行稅納稅制……………明治三二年三月法律第五六號……………三六五—三六六
- 狩獵稅(狩獵法抄錄)……………大正七年四月法律第三二號……………三六七—三六八
- 狩獵法施行規則(抄錄)……………明治三四年六月農商務省令第七號……………三六八
- 間接國稅犯則者處分法……………明治三三年三月法律第六七號……………三六九—三九四
- 間接國稅犯則者處分法施行規則……………明治三三年三月勅令第五二號……………三九五—三九八

● 國稅徵收法(明治三〇年三月法律第二一號)

第一章 總 則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
- 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
- 第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
- 第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當ス トキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得(三五年法律第三六號改正)
 - 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 三 強制執行ヲ受クルトキ
 - 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 五 競賣ノ開始アリタルトキ

六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ

七 納税人脱税又ハ逋税ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(三五年法律第三六號及四四年法律第三七號改正)

督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(同上)

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得(三五年法律第三六號及四四年法律第三七號改正)

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス(同上)

第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(三五年法律第三六號及四四年法律第三七號改正)

第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(三五年法律第三六號改正)

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(三五年法律第三六號改正)

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(三五年法律第三六號改正)

納稅管理人アル時ハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限り其ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(三五年法律第三六號及三八年法律第四六號改正)

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス(四四年法律第三七號及大正三年法律第一二號改正)

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ

證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一二依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス(三五年法律第三六號改正)

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料、延滞金ヲ徵收ス(同上及四四年同第三七號改正)

第三章 滯納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ(三五年法律第三六號改正)

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手数料、延滞金及税金ヲ完納セサルトキ(三五年法律第三六年追加、四四年同第三七號改正)

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タ

ルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手数料、延滞金、滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム(三五年法律第三六號及四四年同第三七號改正)

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知テ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコルヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
- 二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一ヶ月間ノ食料及薪炭

三 實印其ノ其ノ他職業ニ必要ナル印

四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手数料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ撰擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス(三五年法律第三六號四四年同第三七號改正)

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具材料

第十八條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滞納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルル事ナシ(三五年法律第三六號改正)

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員（市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員）若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ（三十五年法律第三六號改正）

差押物件ノ保證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス（三十八年法律第四六號追加）

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ（同上）

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス（三十五年法律第三六號四四年同第三七號改正）

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ（三十五年法律第三六號及三十八年法律第四六號改正）

前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ（同上）

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ（三十八年法律第四六號追加）

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ（同上追加）

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス（三十八年法律第四六號追加）

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令

ヲ以テ之ヲ定ム(三五年法律第三六號改正)

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上タルコトヲ得(三五年法律第三六號改正)

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス(三八年法律第四六號追加)

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物、其ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス(三五年法律第三六號改正)

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス(三五年法律第三六號及四四年法律第三七號改正)

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タル時ハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘

餘アル時ハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツル迄ヲ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アル時ハ之ヲ滯納者ニ交付ス(同上)

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得(同上)

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得(三五年法律第三六號改正)

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手數料、延滞金、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス(三五年法律第三六號及四四年法律第三七號改正)

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦

同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附 則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島伊豆七島ニハ當分ノヲ施行セス

市制町村制ヲ施セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス(明治四十四年三月法律第三七號)

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(大正三年三月法律第一一號)

●國稅徵收法施行規則(明治三十五年四月勅令第一三五號)

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得(大正十一年勅令第一七〇號改正)

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ

旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納税人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添へ漸次之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス(大正十一年勅令第一七〇號改正)

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲ケルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅

三 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタル時ハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十一條ノ二 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ稅金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス(四四年勅令第二八二號追加)

- 一 納稅告知書一通ノ稅金額二十圓未滿ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ督促狀ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徵收セス(同上)

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ(四四年勅令第二八二號改正)

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滞納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滞納者ニ屬スル持分ニ就キ滞納處

分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ(四四年勅令第二八二號改正)

- 一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作りタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ(同上)

收稅官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ滞納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財産權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ(同上)

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ(四四年勅令第二八二號改正)

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得(大正九年勅令第五八八號追加)

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認

ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ(三八年勅令第六七號改正)前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受聖人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産主任官又ハ清算人ニ督促手數料、延滞金、滞納處分費及滞納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス(四四年勅令第二八二號改正)

第三十條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滞納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附 則

第三十二條

市制町村制ヲ施行セサル地方(稅務署所在地ヲ除ク)ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅(酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ(大正十一年勅令第一七〇號改正)

第三十三條

前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條

本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條

本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ明治三十八年法律第四六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(三八年三月勅令第六七號)

本令中延滞金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル明治四十四年分租稅ヨリ之ヲ適用ス(四四年勅令第二八二號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ施行ス(大正九年十二月勅令第五八八號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年三月勅令第一七〇號)

●地租條例(明治十七年三月十日
五日第七號布告)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ
關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島ハ當分從前ノ通タルヘシ(三五年勅令第二七五號、三六
年勅令第二七八號及三九年法律第三三三號ノ爲ニ自然變更)
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地 地價百分ノ二箇半

畑地 地價百分ノ四箇五

其ノ他ノ土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

畑地 地價百分ノ三箇二

地租條例

其ノ他ノ土地

地價百分ノ四箇

本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價格ヲ謂フ(二二年法律第三〇號、三一年法律第三二號、四三年法律第二號及大正三年法律第一八號改正)

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地(四三年法律第二號改正)

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(二二年法律第三〇號改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ(四三年法律第二號追加)

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ

天災ニ罹リ地形ヲ變シタルヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス(二二年法律第三〇號及三八號法律第三三號改正)

一 國府縣都市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ

供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣都市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス(四三年法律第二號改正)

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地(四一年法律第三六號大正三年法律第一九號改正)

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣都市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス
軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス(四一年法律第三六

號追加)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三拾步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勺ト爲ス(四三年法律第二號改正)

第六條 地價ヲ定メ又ハ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(二二年法律第三〇號改正)

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス(同上法律及四三 法律第二號改正)

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓歛下年期明ニ至リタルトキ

四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ(二二年法律第三〇號及四三年法律第二號改正)

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス(四三年法律第二號改正)

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限

第二期

翌年一月一日ヨリ同一月三十一日限

二 田

第一期

其年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限

地租條例

地租額二分ノ一

地租額二分ノ一

- 第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限 地租額四分ノ一
- 第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限 地租額四分ノ一
- 第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限 地租額四分ノ一
- 三 其他ノ土地

- 第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限 地租額二分ノ一
- 第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限 地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特殊ノ納期ヲ設クルコトヲ得(三二年法律第三〇號改正、三八年法律第三三號削除、四三年法律第二號追加)

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

- 一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者
 - 二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者
 - 三 其他ノ土地ニ付テハ所有者
- 前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登録セラレタル者ヲ謂フ(三八年法律第三三號改正)

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ

修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(三二年法律第三〇號及四三年法律第二號改正)

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ其事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス(三二年法律第三〇號及四三年法律第二號改正)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘシ(三二年法律第三號及四三年法律第二號改正)

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其地價ヲ修正ス(三二年法律第三號ヲ以テ本項追加、四三年法律第二號ヲ以テ本項但書

追加、大正八年法律第四〇六號ヲ以テ本項改正)
十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下年期ハ四十年トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(二二年法律第三〇號ヲ以テ本項追加、四三年法律第二號及大正八年法律第四六號改正)

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ二十年ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(二二年法律第三〇號追加 大正八年法律第四六號改正)

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ハ六十年ノ新開免租年期ヲ許可ス(二二年法律第三〇號追加、大正三年法律第一九號 同八年法律第四六號改正)

地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ四十年ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアルベシ(二二年法律第三〇號追加 四三年法律第二號及大正八年法律第四六號改正)

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾歛下年期若クハ地價據置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其

年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス(二二年法律第三〇號ヲ以テ本條削除更ニ三六年法律第十二號ヲ以テ本條追加、四三年法律第二號改正)

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(四三法律第二號改正)

第十八條 (二二年法律第三〇號改正同三四年法律第三〇號ヲ以テ本條削除)

第十九條 歛下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(二二年法律第三〇號改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

海嘯ノ爲潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ(同上法律ヲ以テ本項追加)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七

割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上法律ヲ以テ本條改正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス(同上及四三年法律第二號改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ノ規定ニ依リ處分ス(二二年法律第三〇號改正)

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セザルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス(同上)

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得(四三年法律第二號追加)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脫スルモノハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金又又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス(同上法律ヲ以テ但書改正)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現

地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス(二二年法律第三〇號及四三年法律第二號改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササル者ハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス(二二年法律第三〇號改正)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

附 則(明治三十八年二月法律第十三號)

本法中第十三條第一項第二號ハ明治三十八年分地租ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年法律第四號及明治三十三年法律第十九號ハ之ヲ廢止ス

附 則(明治四十一年法律第三十六號)

本法ハ明治四十一年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附 則(明治四十三年三月法律第二號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス

本法施行前地目ヲ變換シ又地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正三年三月法律第十八號)

本法ハ大正四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附 則(大正八年四月法律第四十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年六月一日ヨリ施行)

本法施行前第十六條第一項ノ届出ヲ爲シ又ハ同條第三項乃至第六項ノ許可ヲ受ケタル土地ニ關シテハ仍ホ従前ノ例ニ依ル

●地租條例施行規則(明治四十三年十二月勅令第四百四十四號)

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

- 一 別地目ト爲ルトキ
- 二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
- 三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
- 四 所有者ヲ異ニスルトキ
- 五 質權ノ目的ト爲ルトキ
- 六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
- 七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後二十年以内又ハ開墾鉞下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス(大正八年勅令第二六三號改正)

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ鉞下年期中地類ヲ變換シタ

ルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ繼續地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス(同上)

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ畝下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス(同上)前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付畝下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム(大正八年勅令第二六三號改正)

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス(同上)

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ畝下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付畝下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ(同上)

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ稅務署長ニ届

出ツヘシ

- 一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ
- 二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ
- 三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地、運河用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ(同上)

- 四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ
- 五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ

(第二項ハ大正八年勅令第二六三號ヲ以テ削除)

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ年期滿了後六十日內ニ稅

務署長ニ届出ツヘシ(大正八年勅令第二六三號改正)

- 一 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ他目ニ變シタルトキ
- 二 低價年期又ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキ
- 三 歛下年期、地價据置年期、新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明トナリタルトキ

第十五條ノ二 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ土地ノ測量圖及實地ノ狀況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リタル書面ヲ稅務署長ニ差出スヘシ(同上)

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戸長ニ届出ツヘシ

前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戸長ノ職務ヲ行フ區域トス

附 則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年五月勅令第二六三號)

本令施行前地租條例第十六條第二項ノ届出ヲ爲シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第十六條

第十七條

●所得稅法(大正九年七月法律第十一號)

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノ

ミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二 本法施行地ニ於テ公債、社債、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ、

三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲 法人ノ超過所得

所得稅法

- 乙 法人ノ留保所得
- 丙 法人ノ配當所得
- 丁 法人ノ清算所得
- 戊 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル所得

第二種

- 甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子
- 乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第三條ノ二 信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得税ヲ賦課ス（大正十一年法律四

五號追加）

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得税ヲ課セラレサル者ナルトキト雖尙所得税ヲ賦課ス（同上）
受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得税ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス（同上）

第四條 法人ノ所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ所得ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ各事業年度ノ所得カ同年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ

基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス
前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得税ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條 法人ノ各事業年度ノ所得中積立金ト爲シタル金額ヲ以テ法人ノ留保所得トス法人カ積立金ヲ減少シタルトキハ其ノ減少額ヲ填補スルニ至ル迄其ノ後ノ各事業年度ノ留保所得ニ付所得税ヲ課セス
積立金ヲ減少シタル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ付前項ノ規定ヲ適用ス但シ合併ノ際合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ積立金ヲ以テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ株式金額又ハ出資金額ニ充當シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 法人ノ各事業年度ノ所得中利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ヲ以テ法人ノ配當所得トス
法人ノ積立金ヲ減少シテ利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ハ之ヲ前項ノ配當所得ニ加算ス

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價格カ解散當時ノ拂込株式金額出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

- 一 俸給給料歳費年金恩給退隠料及此等ノ性質ヲ有スル給與、營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ其ノ收入豫算年額
- 二 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額
- 三 山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
- 四 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額
- 五 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額ヨリ其ノ十分ノ四ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ノ受クル配當ハ同期間ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額ヨリ其ノ十分ノ四ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額

- 六 前各號以外ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル收入豫算年額
- 法人ノ社員其ノ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ退社當時ニ於ケル出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ其ノ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額亦同シ

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給給料歳費年金恩給退隠料賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除ス

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ其ノ年四月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癱疾者アルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 所得千圓以下ナルトキ 年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又

ハ不具癡疾者
 一人ニ付 百圓
 一人ニ付 七十圓
 一人ニ付 五十圓

二 所得二千圓以下ナルトキ 同
 三 所得三千圓以下ナルトキ 同

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ
 前項ノ場合ニ於テハ所得ヨリ控除セラルヘキ金額ハ各其ノ所得ニ案分シテ之ヲ計算ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ
 第一項ノ不具癡疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得税ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス(大正十一年法律第四五號追加)

第十七條 北海道府縣都市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得税ヲ課セス

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得税ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ノ俸給及手當
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
- 三 旅費、學資金及法定扶養料
- 四 郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
- 六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得
- 七 乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保續料

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得税ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ八百圓ニ滿タサルトキハ所得税ヲ課セス第十五條及第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲八百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條

第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

タル金額ヲ超ユル金額

百分ノ四

同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ十

同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ二十

乙

丙

丁

戊

百分ノ五

百分ノ五

百分ノ七、五

百分ノ七、五

法人ノ事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及之ニ代ルヘキ積立金ノ合計金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ニ屬スル其ノ事

業年度ノ留保所得ニ對スル稅率ハ百分ノ十トシ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及之ニ代ルヘキ積立金ノ合計金額ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ニ屬スル其ノ事業年度ノ留保所得ニ對スル稅率ハ百分ノ二十トス但シ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ二十分ノ一ニ相當スル金額以內ノ金額ニ付テハ其ノ稅率ハ百分ノ五トス

第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 公債ノ利子

百分ノ四

其ノ他

百分ノ五

乙

百分ノ七、五

第二十三條

第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅

率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トハ之ヲ區分シ各別ニ稅

率ヲ適用ス

八百圓以下ノ金額

百分ノ〇、五

八百圓ヲ超ユル金額

百分ノ一

千圓ヲ超ユル金額

百分ノ二

所得稅法

千五百圓ヲ超ユル金額	百分ノ三
二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ六、五
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九、五
一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十一
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七

五二

二百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十
 三百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十三
 四百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十六

前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得
調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第三十條 調査委員及補闕員ノ選舉區域ハ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村又ハ北海道、沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第三十一條 選舉区域内ニ住居シ前年第三種ノ所得稅ヲ納メ其ノ年第二十五條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ選舉人名簿ニ登録セラレタルモノハ調査委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補闕員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者
二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ

執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第七十四條乃至第七十六條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者
前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト
看做ス

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ擔任シ選舉會ニ關ス
ル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第三十三條 稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長
ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ
公示スヘシ

第三十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ
投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十五條 市區町村長又ハ戶長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘ
シ

第三十六條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十七條 投票開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

• 立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齡多キ
者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第三十九條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公
示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條 調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコト
ヲ得ス

第四十一條 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ選舉區

域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ選舉區域ニ變更ヲ生シタル日ノ屬スル月ヲ以テ終了スルモノトス

第四十二條

調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條

調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次

之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第四十四條

前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ハ前任者ノ残任期間

在任ス

●選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更

前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條

調査委員又ハ補闕員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルト

キ、第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第四十六條

所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以

テ之ヲ定ム

第四十七條

所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條

所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘ

シ

第四十九條

所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スル

コトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十條

調査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコ

トヲ得ス

第五十一條

八月三十日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ

決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ八月三十日迄ニ調査結了セサ

ルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第五十二條

政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定

メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セ

サルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調查委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二 利子支拂期限及利率

三 償還ノ方法及期限

四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ 大正
(十一年法律第四五號追加)

第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得 同上)

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得(同上)

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十九條 第二十六條、第五十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ
本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲ス

コトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セス

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク

所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徴收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徴收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ

其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セラルル稅金ヲ納付セスシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所外以外、住所ナキトキハ居所外以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所外以外ニ於テ納稅地トス但シ住所外以外ニ在ル者ハ申告シテ居所外ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

七十三條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ 法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

七十四條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ逋脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第一項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出

シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(大正十一年四月法律第四五號改正)
前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書又ハ計算書
ニ付第五十六條第三項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス(同上)

第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査
ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、
第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス
但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ大
正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算ス
ハキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限り、銀行定期預金又ハ定期預金

ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正
九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十九條 所得税法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得税法其ノ他ノ法律ニ
依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル
第十四條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十四條第一項第
四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス

第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定
ニ依ル

第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル
間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限り本稅ノ三割五分ヲ増徴ス
大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキハ前項ニ該
當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付本
法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本稅ノ三割五分ヲ増徴ス

第八十二條 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ
規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日トス

従前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補闕員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス

第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限り第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セス

附 則 (大正十一年四月法律第四五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●所得稅法ノ施行ニ關スル件(大正九年七月法律第十二號)

第一條 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス

第二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第三條第一種甲及戊並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス

第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後繼續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ所得稅法第九條第三項及第十條ノ規定ヲ準用ス(大正十年法律第一五號追加)

第四條 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ臺灣又ハ樺太ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ所得稅法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セス(大正十年法律第一五號追加、大正十一年法律第二七號改正)

第五條 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ課セス(大正十年法

律第一五號追加、大正十一年法律第二七號改正)

第六條 所得税法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スルモノニ付テハ所得税法ニ依ル所得税ヲ課セス(大正十年法律第十五號追加、大正十一年法律第二七號改正)

第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得税ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依ル所得税ヲ免除ス(大正十年法律第十五號改正)

附 則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年三月法律第一五號)

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得税ヨリ、第三條改正ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (大正十一年三月法律第二七號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

● 所得税法施行規則 (大正九年七月勅令 第二百二十六號)

第一條 法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ所得税法第二十一條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 所得税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得税法施行地ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得税ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎

タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乗シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ所得稅ヲ課スヘキ留保所得ハ總所得ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ割合ヲ總留保所得金額ニ乗シ之ヲ計算ス

第五條 所得税法第二十一條第二項但書ノ規定ハ當該事業年度ニ於ケル留保所得中最モ高キ稅率ヲ適用スヘキ金額ヨリ順次低キ稅率ヲ適用スヘキ金額ニ付之ヲ適用ス

第六條 所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ所得稅ヲ課スヘキ所得税法第十條第一項ノ規定ニ依ル配當所得ノ計算ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第七條 所得税法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲スヘシ

所得税法第十四條第一項第二號又ハ第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アル時ハ同條第一項第一號、第二號及第六號ノ規定ニ依ル所得ノ合算額ヨリ之ヲ差引計算ス

第九條 所得税法第十六條ノ不具癡疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第十條 所得税法第二十五條第二項ノ申請書ニハ年齢十八歳未満若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄及不具癡疾ノ事實ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

其ノ年五月一日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得税法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

所得税法第十六條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第十一條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 左ニ掲クル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス

- 一 府縣組合、郡組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、沖繩縣ノ區及區内ノ部、北海道地方費、北海道ノ區及區町村内ノ部、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ
- 二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ

第十三條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
- 二 鐵ノ條、竿、テI形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)
- 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

五 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン

六 製紙用パルプ

七 板硝子

八 コンデンスドミルク

九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十五條 所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第二十四條又ハ第二十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄署稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年五月一日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十六條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算着手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財產確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

殘餘財產ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十八條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添付シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得稅法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第二十條 所得稅法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ毎年四月末日限

二 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限

三 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限

無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年四月末日限

第二十一條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受タル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ

一 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ年分ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎但シ其ノ年一月一日以後調書提出ノ時迄ニ異動アリタルルモノニ付テハ其ノ事實

二 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日

三 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受タル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎

無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂タル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎

第二十二條 第二十條第一號ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出シタル後六月末日迄ニ其ノ記載事項ニ付異動アリタルトキハ七月十日迄ニ異動調書ヲ提出スヘシ

第二十三條 第二十條及前條ノ規定ニ依ル調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シタル一件一人毎ニ五厘ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル請求書ヲ七月末日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十四條 所得稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第二十五條 調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第二十六條 所得稅法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ

第二十七條 稅務署長ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其日ノ現在ニ依リ選舉人名簿正副二通ヲ調製シ副本ヲ市區町村長又ハ戸長ニ送付スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其日ヨリ五日間市區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ於テ選舉人名簿ノ副本ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ
關係者選舉人名簿ノ副本ニ付異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ稅務署長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅務署長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ稅務署長ハ正本ヲ修正シ名簿確定期日前市區町村又ハ戶長ヲシテ其ノ副本ヲ修正セシムヘシ
選舉人名簿ハ選舉期日ノ前日ヲ以テ確定ス

島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉人名簿ニ付テハ大藏大臣ハ第一項乃至第四項ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 市區町村長又ハ戶長ハ投票區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第二十九條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ市區町村長又ハ戶長之ヲ決定スヘシ

第三十條 市區町村長又ハ戶長ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ調査委員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 投票ノ調査終リタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

- 一 投票及開票ノ日時及場所
- 二 投票及開票ノ立會人ノ住所及氏名

三 投票人及投票ノ總數並有效投票及無效投票ノ數

四 投票ヲ無効ト決定シタル事由

五 被選舉人ノ氏名及其ノ得票數

第三十二條 選舉會ハ豫メ稅務署長ノ公示シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開ク

第三十三條 稅務署長ハ選舉區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ選舉會ニ立會ハシムヘシ

第三十四條 所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年第一

三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未滿ナルトキ 十日以内

第三十五條 所得調査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齡多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十六條 所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第三十七條 稅務署長所得税法第二十六條、第五十一條、第五十二條又ハ第七十四條

第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十八條 所得税法第五十九條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ官報

ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條 所得税法第六十條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證

憑書類ヲ添ヘ所得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘ

シ

第四十條 審査委員及其ノ補闕員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第四十一條 審査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

補闕員ハ稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員之ヲ互選ス

第四十二條 稅務監督局長ハ審査委員及補闕員ノ選舉期日、投票ノ時間及投票場所ヲ

定メ之ヲ調査委員ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送附スヘシ

前項ノ規定ニ依ル通知ニハ之ヲ受クヘキ調査委員ノ屬スル府縣又ハ北海道ニ於ケル

調査委員ノ氏名表ヲ添附スヘシ

第四十三條 審査委員及補闕員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ審査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ

投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ但シ相當ノ事由ニ因リ自ラ投票所ニ至ルコト能ハサ

ルトキハ郵便ニ依リ投票スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間後到着シタル投票ハ

無効トス

第四十四條 稅務監督局長ハ調査委員中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會

ハシムヘシ

第四十五條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ

者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 審査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得

ス

第四十七條 審査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ニ當選

ノ通知ヲ爲シ且其ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十八條 審査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコ

トヲ得ス

第四十九條 審査委員及補闕員ハ稅務監督局所轄内ニ於ケル調査委員全部ノ改選アリタルトキ又ハ稅務監督局ノ管轄區域ニ異動アリタルトキ之ヲ改選ス

第五十條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ補闕員ヲ以テ之ヲ補充ス但シ北海道ニ在リテハ補闕員中投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ闕員ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ審査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第五十一條 審査委員又ハ補闕員ニシテ調査委員タルノ資格ナキニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第五十二條 所得審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第五十三條 所得審査委員會ハ開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第五十四條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十五條 所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中年齡多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第五十六條 審査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十七條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ所得審査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十八條 所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ

第五十九條 稅務監督局長所得税法第六十一條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第六十條 納稅義務者所得税法第六十四條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ同時ニ所得税法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第六十一條 所得税法第六十四條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ收入豫算年額四分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第六十二條 稅務署長所得稅法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第六十三條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ所得稅法第十五條第二項、第十六條第二項、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ノ適用ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セス

第六十四條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第六十五條 第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ第二種乙ノ所得ニ付テハ尙其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添付スヘシ
(大正十一年勅令第一七一號改正)

第六十六條 所得稅法第七十二條第二項ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ申告ナキトキハ稅務署長其ノ納稅地ヲ指定ス

第六十七條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムトスルトキハ其ノ旨居所地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第六十八條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第六十九條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十條 納稅義務者所得稅法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十一條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十一條ノ二 臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ大正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス
臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セスシテ臺灣又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外大正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス
(大正十年勅令第六九號追加、大正十一年勅令第一七一號改正)

一 所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シ

タルトキ

二 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 所得稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ

第七十二條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル(大正十年勅令第六九號改正)

第十四條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第七十三條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造業ノ營業場所所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令

ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ(大正十一年勅令第一七一號改正)

第十五條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ所得稅法第十六條ノ規定ノ施行ニ關スル規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル所得稅免除ノ申請及第三種ノ所得ニ關スル申告ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル大正二年勅令第六十九號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (大正十年四月勅令第六十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (正十一年三月勅令第七十一號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●營業稅

(明治二十九年三月三十一日法律第三十三號)

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲 者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 無盡業(大正四年法律第二五號追加)
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船舶碇繫場業

- 一 貨物陸揚場業
- 一 鐵道業(三五年法律第一八號追加)
- 一 請負業(四三年法律第四五號改正)
- 一 印刷業
- 一 出版業(四三年法律第四五號追加)
- 一 寫真業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業
- 一 料理店業
- 一 周旋業(四三年法律第四五號改正)
- 一 代理業(同上)
- 一 仲立業
- 一 問屋業(四三年法律第四五號改正)
- 一 信託業

第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣

又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト看做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
- 一 一定ノ製造業ヲ設ケス物品ヲ製造シテ販賣スル者 (大正三年法律第二〇號本號改正)
- 一 三、牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者
- 一 四、魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
- 一 五、動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 一 一箇年ノ賣上金額二千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス (大正三年法律第二〇號本項改正)

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第二條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設

ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ（大正三年法律第二〇號改正）

運轉資本金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス（四三年法律第四五號本項改正）

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使用シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ（大正三年法律第二〇號改正）

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及物品ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物ヲ爲ス者ハ前項製造業ト看做ス（四三年法律第四五號改正）

資本金額千圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス（大正三年法律第二〇號改正）

第五條ノ一 運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ從業者三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス（大正三年法律第二〇號改正）

第五條ノ二 私設鐵道法、輕便鐵道法又ハ軌道條例ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス（三五年法律第八號追加、四四年法律第三九號及大正三年法律第二〇號改正）

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、出版業、寫眞業ニシテ從業者三人以上ヲ使用セサル者及請負業ニシテ請負金額一箇年二千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス（四三年法律第四五號及大正三年法律第二〇號改正）

出版業ニシテ新聞紙法ニ依ルモノニハ營業稅ヲ課セス（四三年法律第四五號追加）

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス（大正三年法律第二〇號改正）

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ從業者四人以上ヲ使用スル者トス但シ木賃宿ニハ營業稅ヲ課セス（大正三年法律第二〇號改正）

第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ從業者四人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス（三五年法律第一八號及大正三年法律第二〇號改正）

第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業ハ一箇年報

價金額二百圓以上ノ者トス (四三年法律第四五號及大正三年法律第三〇號改正)

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

- 一、政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二、自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣
- 三、度量衡ノ製作、修覆、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス (三五年法律第一八號、同四三年法律第四五號及大正三年法律第二〇號改正)

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣 甲 萬分ノ八一 乙 萬分ノ二一 小賣 甲 萬分ノ二一 乙 萬分ノ三十
銀行保險業	從建資物本貨業價格	千分ノ四、五 一人每ニ金二圓
無保銀	從建資物本貨業價格	千分ノ七十 一人每ニ金二圓

業名	課稅標準	稅率
金貨貨付業	從建運轉資本貨業價格	千分ノ六 一人每ニ金二圓
印刷製造業	從建資物本貨業價格	千分ノ三 一人每ニ金二十
寫出業	從業者ノ內職工勞役者	一人每ニ金五十錢
運送業、運河業	從業者ノ內職工勞役者	千分ノ五 一人每ニ金二圓
倉庫業	從業者ノ內職工勞役者	千分ノ八 一人每ニ金二十
鐵道業	從業者ノ內職工勞役者	千分ノ二十 一人每ニ金二圓
請負業	從業者ノ內職工勞役者	千分ノ四 一人每ニ金三圓
筭業	從業者ノ內職工勞役者	一人每ニ金五十錢
席貨業	從業者ノ內職工勞役者	千分ノ百十五 一人每ニ金二圓

料理店業	從建物賃貨價格	一千分ノ百二十
旅人宿業	從建物賃貨價格	一人毎ニ金二圓
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	從報償業金額	一千分ノ三十 一人毎ニ金二圓

物品販賣業中米、麥、豆、石油、肥料、鹽、煙草、薪炭ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ繭、白絹絲、白絹布、棉花、綿、白綿絲、白綿布、白麻絲、自麻布、紙、麥稈眞田、麻眞田、經木眞田、花筵、砂糖、麥粉、燐寸、銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲、小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス(大正三年法律第二〇號追加)

第十三條 納稅義務アル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ營業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ第二十一條ノ期間内ニ在ル營業者及他ノ法令ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル營業者ニ付テモ亦同シ(大正三年法律第二〇號改正)

新ニ開業シタル者ハ其ノ際前項ノ申告ヲ爲スヘシ(大正三年法律第二〇號追加)

第十三條ノ二 納稅義務アル營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ申告スヘシ(大正三年法律第二〇號追加)

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス(四三年法律第四五號改正)

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルモノニシテ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舗其ノ他ノ營業場内國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ内國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス(三二年法律第三二號追加、大正三年法律第二〇號改正)

第十六條 第十三條ニ依リ届出ツヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ

開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル(三五年法律第十八號改正)

二 資本金、運轉資本金及建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル(大正三年法律第二〇號改正)

三 從業者ハ前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均ニ依ル但シ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トス(同上)

資本金額及運轉資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第十七條 製造業ノ資本金額カ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ

其ノ増加額ハ二年間之ヲ課稅標準ヨリ控除ス但シ二年繼續シテ資本金額ヲ増加シタル場合ニ於テ前前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ年ニ限り

前前年ニ對スル増加額ヲ控除ス(大正三年法律第二〇號改正)

第十八條 課稅標準ト爲スヘキ建物賃賃價格ハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地又ハ建物ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ店舗其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃賃

スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ノ前年中ノ平均額ニ依リ之ヲ算定ス(大正三年法律第二〇號改正)

同一區域内ニ在ル土地建物ト雖直接又ハ間接ニ營業ニ使用セサルモノハ賃賃價格ニ計算セス(同上)

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ヲ除クノ外十五歲未滿ノ者及營業者ノ家族ヲ除ク(大正三年法律第二〇號改正)

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ第二期ハ其ノ年六月一日ヨリ三十日限第二期ハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキハ未納ノ税金ハ即納トス(大正三年法律第二〇號改正)

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲ケル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、出版業、運送業、運河業、棧橋業、船

船碇繫場業、鐵道業（三五年法律第一八號及四三年法律第四五號改正）

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 課稅標準ハ營業稅調查委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス（三五年法律第一八號及大正三年法律第二〇號改正）

調査委員會閉會後納稅義務アルコトヲ申出テタルトキハ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス（大正三年法律第二〇號追加）

第二十六條ノ二 稅務署長ハ毎年納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ課稅標準ヲ調査シ其ノ調査書ヲ營業稅調查委員會ニ送付スヘシ（大正三年法律第二〇號追加）

第二十六條ノ三 各稅務署所轄内ニ營業稅調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條ノ四 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス

第二十六條ノ五 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道、沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第二十六條ノ六 選舉區域内ニ於テ營業シ前年營業稅ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員、補闕員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第三十四條ノ二ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

營業繼續ノ場合ニ於テハ前ノ營業者ノ爲シタル納税又ハ申告ハ命令ノ定ムル所ニ依リ後ノ營業者ノ納税又ハ申告ト看做ス

營業者カ法人ナル場合ニ於テハ代表者ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

調査委員ニ當選シタル者又ハ第一項但書ニ該當スル者ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

第二十六條ノ七 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル前年營業稅ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第二十六條ノ八 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第二十六條ノ九 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル但シ選舉區域ヲ異ニシ各別ニ營業稅ヲ納ムルトキハ選舉區域毎ニ一人トシテ計算ス

選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ但シ前項但書ノ場合ニ於テハ代人ヲシテ投票セシムルコトヲ得

第二十六條ノ十一 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ十二 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十三 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日以前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第二十六條ノ十及第二十六條ノ十一ノ規定ヲ準用ス但シ投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ハ調査委員又ハ補闕員ノ定數ノ二分ノ一トシ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トシテ計算ス

第二十六條ノ十四 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十五 一人ニシテ數選舉區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタルトキハ當選シタル者ノ選擇スル所ニ依ル

第二十六條ノ十六 調査委員又ハ補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十六條ノ十七 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ其ノ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ終了スルモノトス

第二十六條ノ十八 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條ノ十九 調査委員ニ補員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ二十

補闕員ヨリ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス選舉區域ノ變更ニ依リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選舉ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ二十一 調査委員又ハ補闕員ニ選舉セラレタル者第二十六條ノ六第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ於テ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條ノ二十二 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ二十三 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十六條ノ二十四 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十六條ノ二十五 調査委員會ハ定數ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條ノ二十六 調査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與

第一八號追加)

第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(同上)

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得(同上)

一 課税ノ標準タル資本金額、運轉資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃賃價格半額未滿ニ減シタルトキ(大正三年法律第二〇號改正)

二 課税ノ標準タル從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員二分ノ一未滿ニ減シタルトキ(大正三年法律第二〇號改正)

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業税ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得(大正三年法律第二〇號改正)

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課税標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ税金ヲ減額スルコトヲ得

一 課税ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額、資本金額、運轉資本金額、建物賃賃價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ(三五年法律第一八號及大正三年法律第二〇號改正)

二 課税ノ標準タル從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ(大正三年法律第二〇號改正)

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ税金ヲ徵收ス

第三十二條 第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得(大正三年法律第二〇號改正)

第三十四條 第十三條ノ申告ヲ爲サス若ハ虚偽ノ申告ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(大正三年法律第二〇號改正)

第三十四條ノ二 營業税ヲ遁脱シタル者ハ脱税金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首スル者ハ其ノ税金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス(大正三年法律第二〇號追加)

第三十四條ノ三 營業税ノ調査又ハ審査ニ參與シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(大正三年法律第三〇號

追加)

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第三十五條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、

第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

(大正三年法律第二〇號改正)

第二十六條 (削除)

附 則

第三十七條 此税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ

限ニ在ラス

明治二十九年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ稅法

ノ營業稅ハ明治三十年ニ限り年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限り七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地ト

ニ涉リ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス(三二年法律第三二號追加)

附 則 (明治三十五年三月法律第十八號)

本法ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十三年四月法律第四十五號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十四年三月法律第三十九號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前私設鐵道法ニ依ル鐵道ニシテ輕便鐵道法附則ニ依リ輕便鐵道ニ指定セラレ

タルモノニ對シテハ其ノ指定ノ日ヨリ本法ヲ適用ス

附 則 (大正三年三月法律第二十號)

本法ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正四年六月法律第二十五號)

本法ハ大正五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●營業稅法施行規則(大正三年一月勅令
第二百二十九號)

第一條 營業者ノ店舗其ノ他ノ營業場所所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ營業稅ノ所轄稅務署トス但シ營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキモノニ付テハ主タル店舗其ノ他ノ營業場所所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 營業稅法第十三條第一項ノ申告ハ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ
左ニ掲クル者ハ開業後十日内ニ所轄稅務署ニ營業稅法第十三條第二項ノ申告ヲ爲スヘシ

一 新ニ營業稅法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 營業稅法第十五條ノ規定ニ依リ店舗其ノ他ノ營業場ニ付各別ニ營業稅ヲ課スヘキ者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業稅法第一條ノ營業ノ種類ヲ増加スル者

第三條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類及各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス但シ課稅標準ト爲ルヘキモノ數種ノ營業ニ共通スル場合ニ於テハ稅率

ノ最重キ營業ニ付、稅率等シキトキハ其ノ主タル營業ニ付其ノ課稅標準ヲ計算ス
 前項但書ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ計算シタル營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ翌月ヨリ
 前項但書ノ規定ニ準シ其ノ課稅標準ヲ他ノ營業ニ付計算シ月割ヲ以テ稅金ヲ徵收ス
 前項ノ規定ハ第一項但書ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ計算セサル營業ヲ繼續シ又ハ其ノ
 營業ヲ繼續シタルモノト認ムヘキ事實アル場合ニ於テ後ノ營業者ヨリ徵收スヘキ營
 業稅ニ付之ヲ準用ス

第四條 同一人ニシテ數箇ノ店舖其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ス時ハ各店舖
 其ノ他ノ營業場毎ニ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス但シ數箇ノ店舖其ノ他ノ
 營業場ニ共通スル課稅標準ハ主タル店舖其ノ他ノ營業場ノ課稅標準ニ之ヲ計算ス
第五條 營業税法第十五條ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ各店
 舖其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス

第六條 合名會社又ハ合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ
 於ケル出資金額、各種ノ積立金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有ス
 ル資産金額及借入金アルトキハ其ノ出資金額ヲ超過スル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ
 計算ス

第七條 株式會社又ハ株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中各月
 末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額及各種ノ積立金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス
 積立金ノ性質ヲ有スル資産金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ保險會社ニ於ケル
 保險責任準備金及保險支拂備金ハ之ヲ除算ス

第八條 會社ニ於テ資本金額ヲ課稅標準ト爲ス營業ト之ヲ課稅標準ト爲ササル營業又
 ハ營業税法第一條ニ掲ケサル營業ト兼營スルトキハ前二條ノ規定ニ依リ計算シタ
 ル資本金額ヨリ其ノ兼營スル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課
 稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

第九條 會社ノ資本金額計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金額アルトキハ其ノ缺損事實ノ確
 實ナルコトヲ證明シタルモノニ限り資本金額ヨリ之ヲ控除ス

前項繰越缺損金額ハ前年中各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス
第十條 個人ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス
 前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ銀行業
 ニ在リテハ第六條及前條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、家屋、築造物、船舶、機械、器具

等ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ見積時價ニ依ル

第十一條 營業稅法第十七條ノ規定ニ依リ製造業ノ課稅標準ヨリ控除スヘキ增加資本金額ハ前五條ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ依リ之ヲ算出ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル增加額カ其ノ翌年ニ於テ五分ノ一未滿ニ減シタル場合ニ於テハ其ノ前々年ニ對スル增加額ハ之ヲ控除ス

第十二條 會社タルト個人タルトヲ問ハス金錢貸付業又ハ物品貸付業ノ課稅標準ト爲スヘキ額轉資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル貸付及貸付クヘキ金額又ハ物品ノ見積價格ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條 課稅標準ト爲スヘキ建物賃貸價格ハ直接又ハ間接ニ營業ニ使用スル土地、家屋其ノ他ノ築造物ニ付之ヲ計算ス但シ店舗其ノ他ノ營業場ノ區域外ニ在ルモノハ直接營業ニ使用スルモノニ限ル

第十四條 課稅標準ト爲スヘキ建物賃貸價格ハ家屋其ノ他ノ築造物ノ使用ニ必要ナル雜作アルモノトシテ計算シタルモノニ依ル

第十五條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否トヲ問ハス又ハ使用ノ當時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ従事スル者ヲ計算ス但シ營業主ヲ除クノ外十五歲未滿ノ者及營業主ト同一戶籍内ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條ノ二 貯蓄銀行法第七條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ繼續スル業務ハ之ヲ貯蓄銀行ノ營業トシテ課稅標準ヲ計算ス(大正十年勅令第四 五號追加)

第十六條 相續、讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ繼續後十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 營業者住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ他ノ稅務署所轄内ニ移轉シタルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十八條 營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキ營業ニ付店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 營業者廢業シタルトキハ十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二十條 營業稅法第二十六條ノ六第二項ノ規定ニ依リ前ノ營業者ノ爲シタル納稅又

ハ申告ヲ後ノ營業者ノ納税又ハ申告ト看做スヘキ場合ハ前ノ營業者カ前年分營業稅ヲ納付シタル後ニ於テ後ノ營業者カ同法第二十三條ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ限ル

第二十一條 營業税法第二十六條ノ六第三項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者ノ申告ハ同法第十三條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ代表者變更アリタルトキハ之ヲ申告スヘシ
法人ノ代表者ハ一人ニ限ル所轄稅務署ヲ異ニスル場合ニ於テモ同一人タルコトヲ要ス

組合營業ニ付テハ組合員ノ一人ニ限り營業税法第二十六條ノ六ノ規定ニ依リ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員、補闕員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得

前項ノ組合員ニ付テハ法人ノ代表者ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十二條 營業税法第二十六條ノ三ノ規定ニ依リ特ニ營業稅調查委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第二十三條 營業稅調查委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大

藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第二十四條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉資格ヲ有スル者ノ氏名又ハ名稱、營業名及營業稅ヲ課セラレタル店舗其ノ他ノ營業場所在ノ場所ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

選舉資格ヲ有スル者カ法人ナル場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ併セテ通知スヘシ

第二十五條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十六條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名又ハ名稱ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第二十七條 稅務署長調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ

第二十八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十九條 調査委員選舉人 調査委員及補闕員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第二十條 稅務署長當選シタル調査委員及補闕員ノ氏名又ハ名稱ヲ公示シタルトキハ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

第二十一條 一人ニシテ數選舉區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル場合ニ於テハ當選通知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ選擇ヲ爲シ就職セサル旨ヲ當該稅務署ニ通知スヘシ

第三十二條 法人ノ代表者個人トシテ調査委員ニ當選シ若ハ補充セラレタルトキ又ハ營業税法第二十六條ノ六第一項但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ法人ハ更ニ代表者ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十三條 調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ正當ト認ムヘキ事故アルモノニ限ル

第三十四條 調査委員會ノ會長出席セサルトキハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ代理者ヲ定ムヘシ

第三十五條 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ区域内ニ於ケル前年決定ノ營業稅納稅人員數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム
五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ

二十五日以内

千人以上ナルトキ

二十日以内

五百人以上ナルトキ

十五日以内

五百人未滿アルトキ

十日以内

第二十六條 調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第二十七條 稅務署長ハ營業税法第二十六條、第二十六條ノ二十七又ハ第二十六條ノ

二十八ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 營業税法第二十七條ノ規定ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ事由ヲ具シ證

憑書類ヲ添ヘ所轄稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第三十九條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第四十條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長ハ選舉期日ヲ定メ所轄内調査委員ノ氏名又ハ名稱ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ

第四十一條 審査委員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シテ投票スヘシ

投票ハ郵便ヲ以テ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間ノ終了スル迄ニ到達セサル投票ハ之ヲ無効トス

第四十二條 審査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務監督局長ハ調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第四十三條 審査委員ノ選舉ニ於テハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名又ハ名稱ヲ公示シ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

第四十五條 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス但シ關員ヲ生シタルトキハ臨時ニ補關選舉ヲ執行スヘシ

第四十六條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十七條 審査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十八條 審査委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十九條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ代理者ヲ定ムヘシ

第五十條 審査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十一條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十二條 審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ報告スヘシ

第五十三條 稅務監督局長ハ營業税法第二十八條ノ一ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五十四條 營業者ヨリ營業税法第二十九條ノ申立アリタルトキハ稅務署長ハ課稅標準計算ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ該當スルトキハ課稅標準ヲ更訂シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五十五條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ在ラサル場合ニ於テ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五十六條 收稅官吏營業稅法第三十三條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附 則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス(大正十年十二月勅令第四八五號)

● 相續稅法(明治三十八年一月法律第十號)

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國內ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲クル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

- 一 本法施行地ニ在ル動產及不動產
 - 二 本法施行地ニ在ル不動產ノ上ニ在スル權利
 - 三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權
- 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス
- 船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル
- 相續開始前一年內ニ本法施行地內ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地內ニ在ルモノト看做ス

第三條

被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相続開始ノ際本法施行地ニ在ル
 相続財産ノ價額ニ相続開始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタ
 ル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

- 一 公課
- 二 被相続人ノ葬式費用
- 三 債務

被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相続開始ノ際本法施行地ニ在ル相続
 財産ノ價額ニ相続開始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈
 與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

- 一 其ノ財産ニ係ル公課
- 二 其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セ
 ラルル債務
- 三 其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相続税ノ課税價格ニ算入セス
 公共團體又ハ慈善其他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課税價格ニ算入セス

(四三年法律第四號改正)

第三條ノ二 家督相続ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ算出シタル課税價格三千圓以
 下ナルトキハ一千圓ヲ、五千圓以ナルトキハ五百圓ヲ控除ス (大正三年法律第二二號

追加)

第四條 相続財産ノ價額ハ相続開始ノ時ノ價額ニ依ル

船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價額ヲ評定ス

- 一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年數ニ應シ一年ニ付其ノ二十五分ノ一
 宛ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ價額トス但シ製造後二十年ヲ經過シタルモノハ製
 造費ノ五分ノ一ヲ以テ其ノ價額トス
- 一年ニ滿タサル端數ハ之ヲ一年トシテ計算ス

- 二 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	二倍
殘存期間三十年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	三倍
殘存期間五十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定ナキモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	五倍

- 殘存期間百年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 七倍
- 殘存期間百年ヨリ長キモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 十二倍
- 三 永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價格トス
 - 殘存期間十年以下ナルモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 二倍
 - 殘存期間三十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定ナキモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三倍
- 四 有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 五倍
- 五 無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス
- 六 終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス
 - 二十歳未滿ノ者 十年
 - 三十歳未滿ノ者 八年
 - 四十歳未滿ノ者 六年

五十歳未滿ノ者 四年
六十歳未滿ノ者 二年
六十歳以上ノ者 一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保險料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利、信託ノ利益ヲ受クヘキ權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス（大正一一年法律第四八號改正）

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條 課稅價格カ家督相續ニ在リテハ二千圓、遺産相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス但シ第三條ノ二ノ規定ニ依ル金額ヲ控除シタル爲ニ二千圓ニ滿タサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス（大正三年法律第二二號改正）

第七條 軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷痍者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一

相續税法

五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
二十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ十萬圓(毎二百萬圓ニ至テ止ム)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

一三四

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺産相續ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第九條 相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ニ對スル稅率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得

相續人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相續人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相續稅ヲ課ス
前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ税金ノ差額ヲ追徵シ又ハ還付ス

第十條 相續稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ免除ス(四三年法律第四號改正)

相續稅ヲ課セラレタル後七年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス(同上)

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相續財産ノ目錄及相續財産ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ
相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國內ニ住所

相續税法

一三五

ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相続人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ相続人ノ相続關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條 戸籍吏左ノ事項ニ關スル届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收税官廳ニ報告スヘシ

- 一 死亡又ハ失踪
- 二 戸主ノ隠居又ハ國籍喪失
- 三 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト
- 四 入夫婚姻ニ因リ女戸主カ戸主權ヲ喪失シタルコト
- 五 戸主タル入夫ノ離婚

第十三條 課税價格ハ政府之ヲ決定ス

課税價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ニ通知スヘシ

第十四條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相続税審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス
審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 課税價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條 相続税ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ税金額百圓以上ナルトキハ相続税ニ相當スル擔保ヲ提供シ五年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得(四三年法律第四號改正)

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求ムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第十八條 審査ヲ求メ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ税金ヲ納付スヘシ

第十九條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ相続税ヲ納付シ又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 相續財產ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年內ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財產ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 相續稅ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人期限內ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得
相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人其ノ期間內ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ヨリ徵收スルコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徵收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス
第三項ノ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財產ニ付爲シタル贈與ノ價額カ五百圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財產ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

- 一 被相續人カ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ贈與ヲ爲シタルトキ
- 二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十三條ノ二 信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ
第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動産又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス(大正一一年法律第四八號追加)

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ罰金ヲ徵收シ其ノ罪ヲ問ハス(四三年法律第四號改正)

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
(同上)

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附

則(明治四十三年三月法律第四號)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附

則(大正三年三月法律第二二號)

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附

則(大正一一年四月法律第四八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 相續税法施行規則(明治三十八年三月勅令第六十八號)

第一條 相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續税ノ所轄稅務署トス

相續開始地カ相續税法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相續財產所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス相續財產カ二箇以上ノ稅務署管内ニ在ルトキハ其ノ主タル財產ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續税法第十一條第一項ニ定メタル期間内ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財產目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一 被相續人ノ氏名

二 相續開始地

三 相續開始ノ日

四 家督相續、遺産相續ノ區別

- 五 被相續人カ相續開始前一年内ニ相續稅法施行地ニ在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財産ノ價額及受贈者ノ住所氏名
 - 六 相續人ノ住所氏名
 - 七 相續人ト被相續人トノ續柄
- 前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セサル理由ヲ記載スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル
- 第三條 稅務署長ハ相續財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ
- 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求ムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳

記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條 稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相續稅審查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審查委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 審查委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

審查委員ノ任期ハ三年トス

第八條 審查委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條 審查委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審查委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審查委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審查委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條 審查委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 審査委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關スル審査ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財產ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條 相續稅ノ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 増擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ稅金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス
保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足ア

ルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人相續税法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ
前項ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 通行稅法 (明治四十三年三月法律第五號)

第一條 汽車、電車及汽船ノ乗客ニハ左ノ區別ニ依リ通行稅ヲ課ス

二百哩又ハ二百海里以上

一等

金五十錢

二等

金二十五錢

三等

金四錢

二百哩又ハ二百海里未滿

一等

金四十錢

二等

金二十錢

三等

金三錢

百哩又ハ百海里未滿

一等

金二十錢

二等

金十錢

三等

金二錢

五十哩又ハ五十海里未滿

一等	金五錢
二等	金三錢
三等	金一錢

往復乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ往復ノ里程ヲ通算シテ之ヲ徴收ス

貸切、多人數、回数又ハ定期乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ第一項税額ノ五倍ヲ徴收ス

第二條 通行税ヲ課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分タサルモノニ在リテハ三等ノ税率ヲ適用シ二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等三等ノ税率ヲ適用シ一等級ノ上又ハ三等級ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等ノ税率ヲ適用ス

第三條 左ノ場合ニ於テハ通行税ヲ課セス

- 一 外國行ノ汽船ニ乗シ外國ニ赴クトキ
- 二 鐵道軍事供用令ニ依リ乗車スルトキ

第四條 通行税ハ汽車、電車又ハ汽船營業者乗船車賃金ヲ領收スルトキ之ヲ徴收スヘシ

前項ニ依リ徴收シタル通行税ハ毎月取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第五條 汽車、電車又ハ汽船營業者前條ニ依リ徴收スヘキ通行税ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徴收ス

第六條 收税官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第七條 回数乗船車券ハ之ヲ分割販賣スルコトヲ得ス違反スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中通行税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●通行税法施行規則(明治四十三年三月)
(勅令第二十九號)

汽車、電車又ハ汽船營業者ハ拂込書及計算書ヲ添附シ毎月十日迄ニ前月分ノ通行税ヲ各營業場最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ但シ營業者カ本店所在地所轄稅務署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ本店最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムコトヲ得(大正一一年勅令第一七六號改正)

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十一年三月勅令第七十六號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●登録税(明治二十九年三月)
(法律第二十七號)

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(三二一年法律 八三號改正)

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ五(三八年法律第九號改正)

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ五(同七)

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ六十(四三年法律第一一號改正)

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ

不動産價格 千分ノ三十(三八年法律第五七號、

四三年法律第十一號改正)

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有
權ノ取得 不動産價格 千分ノ六十(大正一一年法律第四六號
追加)

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團
又ハ財團法人カ歸屬權利者ナルトキハ

四 第一號乃至第三號ノ二以外ノ原因ニ依ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ三十(同上)
不動産價格 千分ノ三十五(四三年法律第一一號及
大正一一年法律第四六號改正)

五 從來保有セル所有權ノ保存
不動産價格 千分ノ五(同上)

六 共有物ノ分割
分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格
千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得
不動産價格 千分ノ二十五

八 地上權、永小作權ノ取得

存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ二

存産期間二十年未滿 不動産價格 千分ノ三

存續期間三十年未滿 不動産價格 千分ノ四

存續期間三十年以上 不動産價格 千分ノ五

存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其
ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

九 賃借權ノ取得

存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ一

存續期間十年以上 不動産價格 千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其
ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

十 地役權ノ取得 要役地價格 千分ノ一

十一 華族世襲財産ノ創設 不動産價格 千分ノ二十五(同上)

十二 先取特権ノ保存又ハ取得

債権金額又ハ不動産工事費用豫算金額

千分ノ六

但シ債権金額ナキトキ又ハ先取特権ノ目的タルモノノ價格カ債権金額ヨリ寡キトキハ先取特権ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

十三 質權、抵當權ノ取得

債権金額

千分ノ六

但シ債権金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債権金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

十三ノ二 信託ノ登記

不動産價格

千分ノ五

大正一二年法律第四六號追加

十四 競賣、強制管理ノ申立 債権金額

千分ノ六

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債権金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

十五 假差押、假處分

債権金額

千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債権金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

十六 抵當アル債権ノ差押

債権金額

千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債権金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

十七 相續財産ノ分離

所有權ニ付テハ

不動産價格

千分ノ六

所有權以外ノ權利ニ付テハ

不動産價格

千分ノ一

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

不動産每一箇

金二十錢

十九 假登記

不動産每一箇

金二十錢

二十 (三八年法律第九號ニテ削除)

二十一 附記登記

不動産每一箇

金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス(三四年法律第二六號改正)

二十二 登記ノ更正變更又ハ抹消 不動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス(同上)

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ依ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依

第三條

船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ三

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ三(三八年法律第九號改正)

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ五十(四三年法律第一號改正)

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有

船舶價格 千分ノ五十(大正一一年法律第四六號

追加)

四 第一號乃至第三號ノ二以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ二十五(同上、大正一一年法律

第四六號改正)

四ノ二 委付

船舶價格 千分ノ三(大正三年法律第二一號追加)

五 從來保有セル所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三(四三年法律第一一號改正)

六 賃借權ノ取得

船舶價格 千分ノ一

存續期間十年未満

船舶價格 千分ノ二

存續期間十年以上

船舶價格 千分ノ一

七 質權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡

キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ債權金額ト看做ス

七ノ二 信託ノ登記 船舶價格 千分ノ三(大正一一年法律第四六號追加)

八 競賣ノ申立 債權金額 千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以

テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

船舶每一箇 金二十錢(三四年法律第二六號改正)

十二 假登記 船舶每一箇 金二十錢(三四年法律第二六號追加)

十三 (三十八年法律第九號ニテ削除)

十四 附記登記 船舶每一箇 金十 錢(三四年法律第二六號追加)

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

船舶每一箇 金十 錢(同上)

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依

ル

第三條ノ二 鐵道抵當原簿、輕便鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキ

ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(三十八年法律第五八號、四二年法律第三一號、四三年法律第六四號ニテ改正追加)

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

一ノ二 信託ノ登録 債權金額 千分ノ一(大正十一年法律第四六號追加)

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓

第三條ノ三 工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

(三十八年法律第五八號改正)

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一(大正十一年法律第四六號追加)

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

登録税法

- 三 假差押、假處分 債権金額 千分の一
- 四 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓

第三條ノ四 鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
 (三八年法律第五八號改正)

- 一 抵當權ノ取得 債権金額 千分の一
- 一ノ二 信託ノ登記 債権金額 千分の一(大正十一年法律第四六號追加)

- 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債権金額 千分の一
- 三 假差押、假處分 債権金額 千分の一

第四條 船籍ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(三二年法律第八三號改正)

- 一 新規登録 每十噸 金五十錢
- 二 轉籍 每十噸 金十錢
- 三 除籍 每十噸 金五錢

四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(三二年法律第八三號、三五年法律第八號改正)

- 一 新規登録 地價 千分ノ二十
- 二 地價ノ設定 地價 千分ノ十
- 三 地價ノ修正 地價 千分ノ十
- 四 開墾 地價 千分ノ十
- 五 開墾歛下年期付與 地價 千分ノ十(三五年法律第八號改正)
- 六 地價据置年期付與 地價 千分ノ十
- 七 新開免租年期延長 地價 千分ノ十(同上)
- 八 歛下年期、地價据置年期ノ延長 地價 千分ノ十(同上)
- 九 低價年期ノ付與 地價 千分ノ一
- 十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ一

登録税法

十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十五圓未滿ナルトキハ十五圓トス(三二年法律第八三號、四三年法律第十一號改正)

一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ四(四三年法律第十一號改正)

二 合名會社、合資會社出資増加

財產ヲ目的トスル増出資ノ價格

千分ノ四(四三年法律第十一號改正)

三 株式會社設立

拂込株金額 千分ノ五(同上)

四 株式會社資本増加

増資拂込株金額千分ノ五(同上)

五 株式會社第二回以後ノ株金拂込

毎回拂込株金額千分ノ五(同上)

六 株式合資會社設立

拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資

ノ價格 千分ノ五(同上)

七 株式合資會社資本増加

増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ

出資ノ價格 千分ノ五(同上)

八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込

毎回拂込金額 千分ノ五(同上)

九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立

拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資

ノ價格 千分ノ二(同上)

十 合併ニ因ル會社資本ノ増加

増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ

出資ノ價格 千分ノ二(同上)

十一 社債

拂込金額 千分ノ二(大正三年法律第二一號改正)

十一ノ二 第二回以後ノ社債拂込

毎回拂込金額 千分ノ二(大正三年法律第二一號追加)

十二 支店設置

每一箇所 金十五圓(四三年法律第十一號改正)

- 十三 本店又ハ支店ノ移轉 每一件 金七圓(同上)
 - 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金七圓(同上)
 - 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金七圓(同上)
 - 十六 但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金七圓(同上)
 - 十六ノ二 合名會社合資會社設立ノ取消 每一件 金五圓(大正三年法律第二一號追加)
 - 十七 解散 每一件 金五圓(同上)
 - 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金一圓五十錢(同上)
 - 十九 清算ノ結了 每一件 金一圓五十錢(同上)
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓五十錢ノ登録税ヲ納ムヘシ(大正七年法律第一四號ヲ以テ第三項乃至第五項削除)

第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(三

二年法律第八三號改正)

- 一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金七圓(四三年法律第一一號改正)
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金七圓(同上)
 - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金七圓(同上)
 - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金三圓(同上)
 - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金三圓(同上)
 - 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金一圓五十錢(同上)
 - 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓五十錢(同上)
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金七十錢ノ登録税ヲ納ムヘシ

シ(同上)

第七條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録 金二十圓

二 登録換 金十圓

三 取消ノ請求 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ

從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録

醫師 金二十圓

藥劑師 金十二圓

獸醫 金十二圓

蹄鐵工 金五圓

假開業醫師 金五圓

假免許獸醫 金三圓

假免許蹄鐵工 金一圓(三二年法律第八三號追加)

二 登録事項ノ變更 每一件 金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

(同上)

一 新規登録

甲種船長 金十五圓

甲種一等運轉士 金十圓

甲種二等運轉士 金六圓

乙種船長 金十圓

乙種一等運轉士 金四圓

乙種二等運轉士 金三圓

丙種船長 金六圓

丙種運轉士 金二圓

機關長 金十五圓

一等機關士 金十圓

二等機關士 金六圓

登録税法

登録税法

三等機關士

金三圓

水先人

金二十圓

二 登録事項ノ變更

每一件

金五十錢

第十條 著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(四三年法律第六四號改正)

一 著作權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ六

三 前號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

四 無名又ハ變名著作物ノ著作權者ノ實名登録

每一件

金一圓

四ノ二 信託ノ登録

每一件

金一圓(大正一一年法律第四六號追加)

五 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(四二年法律第三一號改正)

一 特許權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金十圓

二 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存

每一件

金五圓

登録税法

- 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定
債權金額 千分ノ六
- 四 前二號ノ權利ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
大正一二年法律第四六號追加
- 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限
債權 千分ノ四
- 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(四二年法律第三二號改正)

- 一 意匠權ノ移轉
相續 每一件 金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金一圓
- 三 前三號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定
債權金額 千分ノ六
- 四 前二號ノ權利ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓(大正一二年法律第四六號追加)
- 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限
債權金額 千分ノ四
- 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消

債権金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債権金額ナキトキハ債権ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
(四十二年法律第三一號改正)

一 實用新案權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

二 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存

每一件

金二圓

三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定

債権金額

千分ノ六

四 前二號ノ權利ノ移轉

每一件

金五十錢

相續

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

四ノ二 信託ノ登録

每一件

金一圓(大正十一年法律第四六號追加)

五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限

債権金額

千分ノ四

六 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二十錢

債権金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債権金額ナキトキハ債権ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス(同上)

一 商標權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金十圓

- 一ノ二 信託ノ登録 每一件 金三圓(大正十一年法律第四六號追加)
- 二 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢

第十四條 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登録ヲ受タルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム
 (シ(三八年法律第九號改正))

- 一 試掘權ノ設定 每一件 金百圓(四三年法律第一一號改正)
- 二 試掘權ノ變更
 - 増區又ハ増減區 每一件 金四十五圓(同上)
 - 減區 每一件 金十圓
- 三 試掘權ノ移轉
 - 相續 每一件 金十圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金四十五圓(同上)
- 四 採掘權ノ設定
 - 新規登録 每一件 金二百圓(同上)

- 鑛區合併 每一件 金五十圓
- 鑛區分割 設定鑛區每一箇 金五十圓
- 五 採掘權ノ變更
 - 鑛區訂正 每一件 金五十圓
 - 増區又ハ増減區 每一件 金百圓(同上)
 - 減區 每一件 金二十圓
- 六 採掘權ノ移轉
 - 相續 每一件 金二十圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金百圓(同上)
- 七 抵當權ノ設定
 - 新規登録 債權金額 千分ノ六
 - 鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
- 八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金五圓

- 九 抵當權ノ移轉
相續 每一件 金十圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 九ノ二 信託ノ登録 每一件 金十圓 (大正一一年法律第四六號追加)
 - 十 共同鑛業權者ノ脱退 每一件 金五圓
 - 十一 滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限
債權金額 千分ノ四
 - 十二 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 每一件 金五圓
 - 十三 登録ノ更正、變更又ハ取消 每一件 金十圓
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十五條 砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(四二年法律第一四號改正)

- 一 砂鑛權ノ設定
新規登録 採取區域(河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄) 金十五圓
- 砂鑛區合併 每一件 金三圓
- 砂鑛區分割 設定砂鑛區每一箇 金三圓
- 二 砂鑛權ノ變更
增區 採取區域(河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄) 金十五圓
- 減區 每一件 金一圓
- 但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 三 砂鑛權ノ移轉
相續 每一件 金五圓

登録税法

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金十五圓

四 抵當權ノ設定

新規登録

債權金額

千分ノ六

砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協
定ニ因ル設定

每一件

金五圓

五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更

每一件

金十圓

六 抵當權ノ移轉

相續

每一件

金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金十圓

六ノ二 信託ノ登録

每一件

金五圓(大正一一年法律第四六號追加)

七 滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限

債權金額

千分ノ四

八 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅 每一件

金一圓

九 登録ノ更正、變更又ハ取消

每一件

金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的ヲ
ルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別

ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(四三年法律第六四號改正)

一 漁業權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

二 漁業權ノ持分ノ移轉

相續

每一件

金二十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

登録税法

登録税法

- 三 入漁權ノ設定 每一件 金三圓
- 四 入漁權ノ保存 每一件 金五十錢
- 五 入漁權ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 六 入漁權ノ持分ノ移轉
相續 每一件 金十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
- 七 賃借權ノ取得
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル取得 每一件 金二圓
- 八 先取特權ノ保存又ハ取得 每一件 金二圓

- 九 債權金額又ハ工事費用豫算金額 千分ノ六
抵當權ノ設定又ハ移轉 債權金額 千分ノ六
設定 債權金額 千分ノ六
相續 每一件 金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 九ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓(大正一二年法律第四六號追加)
- 十 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ六
- 十一 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四
- 十二 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六
- 十三 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登録ノ回復 每一件 金二十錢
- 十四 假登録 每一件 金二十錢
- 十五 附記登録 每一件 金十錢
- 十六 登録ノ更正、變更又ハ抹消

登録税法

債権金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債権金額ナキトキハ債権ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

第十六條 左ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(四二年法律第三一號及大正三年法律第二一號改正)

一 府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣郡市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存
不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ一

二 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ無償名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存
不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ一

三 法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利ノ取得
不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ五
他ノ規定ニ依リ算出シタル税額カ前項第三號ニ依ル税額ヨリ少キトキハ其ノ税額ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ税金額十錢未満ナルトキハ十錢トス

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録税ヲ課セス(三二年法律第八三號改正)
一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録(大正三年法律第二一號改正)

二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記又ハ登録(三三三年法律第四四號及大正三年法律第二一號改正)

三 社寺堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登録(同上)

四 明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第四百八十八號布告建物書入質入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

五 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ付産業組合法又ハ漁業法ニ基キテ爲ス登記(大正七年法律第一四號追加)

六 登記又ハ登記スヘキ信託財産ニシテ委託者が信託行爲ニヨリ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノヲ委託者ヨリ委託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登記

録(大正一一年法律第四六號追加)

- 七 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録(同上)
- 八 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録(同上)
前項第六號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノ時ニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録税ヲ課ス(同)

第十九條ノ二 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ(三二年法律第八三號及大正三年法律第二二號改正)

第十九條ノ三 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得(大正三年法律第二二號追加)

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課税標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ價格一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課税標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ四 前項ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(同上)

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ五 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル税額ト認定價格ニ相當スル税額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ(同上)

第十九條ノ六 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス(同上)

第十九條ノ七 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク(同上)

第十九條ノ八 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評價價格カ申告價格ニ超ヘサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ九 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス(三十二年三月法律第六〇號附則)
此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作権法施行ノ日ヨリ施行
ス(三十二年三月法律第八三號附則)

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登録ニ付テハ鑛業法施行
ノ日ヨリ之ヲ施行ス(三十八年三月法律第九號附則)

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録税ヲ納メタル者
鑛業法ニ依リ其事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要
セス(三十八年一月法律第九號附則)

附 則(四十二年三月法律第一四號)

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ手数料ヲ納メタ
ル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登録ニ付更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛
法第二十七條第一項ニ依ル登録ニ付亦同シ

附 則(四十二年四月法律第三二號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十二年八月勅令第二一二號及同
年一〇月勅令第三〇二號ヲ以テ定ム)

附 則(四三年三月法律第一一號)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別税法中登録税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則(四三年六月法律第六四號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則(大正三年三月法律第二一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則(大正七年三月法律第一四號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正七年三月二三日)

附 則(大正一一年四月法律第四六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●大正三年法律第二十一號施行期日ノ件(大正三年十月勅
令第二二四號)

大正三年法律第二十一號ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●登録税法施行規則(明治三十二年五月)
勅令第二〇五號

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ納ムヘシ
- 第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登録若ハ假登録ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登録官廳ニ送付スヘシ(大正三年勅令第二二五號改正)
- 第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ
- 第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第五條ノ二 管轄官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ(三

八年三月勅令第七七號追加、三八年法律第六八號施行ノ日ヨリ施行)

第六條 登録税法第十九條ノ三ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ(大正三年勅令第二二五號改正)

登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第七條 登録税法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ内國旅費規則ヲ準用ス(大正三年勅令第二二五號追加、同一〇年勅令第四一七號改正)

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス
第八條 登録税法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日三圓以上十圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム(大正三年勅令第二二五號追加、同一〇年一〇月勅令第四一七號改正)

附 則 大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十年十月勅令第四一七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表) 大正一〇年勅令第四一七號ニ依ル別表)

旅 費 額		鐵道賃	船賃
車馬賃 <small>一里ニ付</small>	宿泊料 <small>一夜ニ付</small>	日 當 <small>一日ニ付</small>	
七十五錢	五圓五十錢	三 圓	二等旅客運賃但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノエ在リテハ上級ノ運賃其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃